

日本のODAを考える会 2月24日2010年

ODAの将来に対するメモ

衆議院議員 首藤信彦 (すとうのぶひこ)

<http://www.sutoband.gol.com>

1. 援助テーマの変遷：Big Push から Good Governance まで

何か足りない→すべて足りない

(・・・・・・・・→すべてを加えても結果は生まれない?)

マーシャルプラン(1950s)→国連開発10年・Big Push、→南北関係・プレビッシュ報告、経済発展、輸入代替・輸出促進 (1960s)→石油危機・新国際経済秩序、BHN・社会開発(1970s)→構造調整、グローバルイシュー(1980s)→冷戦構造崩壊、NGO参加、人間の安全保障・Good Governance(1990s)→債務帳消 (2000s)、ミレニアム開発→911テロ、新自由主義、反グローバリズム — 真実はジェフリー・サックスとポール・コリアーのはざまに—

2. テーマの変遷と拡大

2010年の世界

非衛生・貧困_____

疫病・絶対貧困_____

低開発・依存_____

人権_____

紛争・難民_____

環境劣化_____

ガバナンス崩壊_____

3. 絶対的貧困の猛威

伝統的絶対貧困 + 新局面の貧困

紛争：冷戦構造崩壊、民族紛争、テロとの戦い

国家・行政・集団・伝統産業の枠組みを壊した者の責任

4. 枯渇する援助資源

供与国の幻滅：トリクルダウン幻想、援助疲れ、国民の反発

対象の拡大：紛争、疫病、イラク・アフガン戦争（貧困ではなく、テロリストとの戦い）

供与国の衰退：フリーライダーとしての BRICS

5. 国際機関の無力・限界と弊害

IMF, IBRD, GATT(ITO), WTO

国連 (UNDP, UNHCR, UNICEF, WFP,

6. 日本のODA

戦後賠償→経済協力→ODA

建前：世界

本音：日本 タイド、円借 日本型公共投資

→国民的理解と参加の欠如、国民怨嗟の対象

→理念と目標を失って、削減の対象

7. ケーススタディ

トンゲーロード 悔悟、破壊したものの再建、地域の未来、日本人の献身、永遠の貢献

v s

タリバン末端兵士の社会復帰

米軍への協力、国際社会への貢献アリバイ、実態も効果も不明

カルザイ政権とともに消える

8 何が問題か

日本のアイデンティティ、外務省のアイデンティティが問われている

世界観：アメリカ絶対、西欧史観、

援助の理念欠如→ミッション、グランドデザイン、ストラテジー欠如

国民参加と啓蒙の欠如

9. ODA からGHSへ

Official=Government → Public or Global

Development → Humanity、Symbiosis、Solidarity

Assistance →Support

10. 組織改革

① 外務省→世界連帯庁（援助統括機関）

② 外務省→JICA(エンジニアリング中心)

→GSSA（社会、人権など） 並列

③ 国際連帯省 あるいは 平和省で統括

11. 参加と理解

資金の流れ、支援活動主体を国民に近いところで行い、理解を深める

旧： G → G' → P' (G:政府 P': 被援助国民 N:NGO)

新： G→N →N' →P'

G→N →P'

国民における援助必要性認識（援助がどれほど日本のためになっているか）

世界の状況理解（どれだけ援助が必要か）

プロジェクト評価の進展（どのような援助が良いか）